



師走を迎えて

学校長 森本 信一

早いもので、令和4年も師走の12月を迎えました。年の瀬に向けて、慌ただしい毎日を過ごしていくこととなります。2学期に実施した様々な学校行事におきましては、コロナ対策を講じながらではありましたが、保護者の方々に直接見ていただく機会をもつことができ、温かい応援をいただきました。ありがとうございました。来年も引き続き、よろしくお願いいたします。

令和4年も残り1か月で幕を閉じ新しい1年を迎えようとしています。日本人は、このような節目を古来よりとても大切にしてきました。いろいろな節目がありますが、それぞれの節目において、これまでの歩みを振り返ることで自己肯定感を感じたり、自己の至らなさを反省したり、その時々を思いを胸に刻み、さらにこれからの行き先を展望し、希望と勇気を湧き起こし、さらに成長していこうとする。このようなことを、昔より大切にしてきたのではないのでしょうか。このことを総じて「けじめ」をつけるとも言います。「けじめ」とは、区切りをつけるという意味ですが、古くは「**けぢめ**」と表現していたようで、今使われている「区切りをつける」という意味の他に「変化する」という意味もあったようです。つまり、「**けぢめ**」はこれまでとこれからに区切りを付け、これまでとは違うこれからへの変化を目指すという気持ちが込められた言葉だということです。冬休みは、大晦日や正月など家族でゆっくりできる時間があるかと思います。過ぎゆくこの1年間にどのように成長したか、そして新しい年にどのような目標を立てるかなど、家族団らんの中で「**けぢめ**」について語り合うチャンスにしてもらいたいと思います。

来年を串木野中学校がさらに飛躍できる年にするためには、生徒の自主性や良さを最大限に引き出し、身に付けるべきことをしっかり身に付けさせ、どこの生徒にも負けない素直で素晴らしい生徒に育てていかなければなりません。そのためには、生徒、教師、保護者、この串木野中に関わる全ての方の気持ちと力を合わせ、進んでいかなければならないと思います。来年のこの時期に、とっても良い1年だったと語れるように、これからもご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



【学校教育目標】

夢と志をもち、主体的に学び考え行動し、心豊かでたくましい生徒を育成する。

- 1つ目「自分で考える」こと。
- 2つ目「対話する」こと。
- 3つ目「あきらめずに続ける」こと。